

研究課題名	急性骨髄性白血病（AML）における予後規定因子となる遺伝子変異の探索
研究責任者(職名)：	山口博樹（日本医科大学助教授）
実施責任者(職名)：	萩原政夫（永寿総合病院血液内科主任部長）
研究期間：	～ 2019年7月31日まで
研究目的と意義：	急性骨髄性白血病の予後に影響する遺伝子解析を実施する。 その結果に基づいて化学療法のみで長期寛解や治癒が達成困難となれば、造血幹細胞移植を選択する重要な判断材料となり、患者様への還元効果が大きいものと考えられる。
研究内容：	<ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さま 当院で加療開始となり、移植適応とされた急性骨髄性白血病患者 ●利用する情報 患者骨髄あるいは末梢血由来の予後と関連する遺伝子情報
問い合わせ先：	<p>【研究担当者】</p> <p>萩原政夫および血液内科常勤医師（華、井上）</p>